

聖母被昇天をお祝いたします。

マリアさまが好きな方は大勢いると思います。イエスの母として神の思いをすべて受け入れ、神と喜びや苦しみを共にされ、それゆえ天の元后として高く上げられ、私たちを守ってくださいます。

また心の貧困を憂い、神の愛の宣教者会のシスターを日本に派遣して下さったマザー・テレサが来月9月4日に列聖されます。最も貧しい人たちにとことん仕え、愛を伝え、尽くし切ったマザー。マリアさまやマザーを通してイエス・キリストに繋がる人が、もっともっと増えますように！

第40回日本カトリック映画賞 『あん』 授賞式&上映会

2016年5月5日、なかのZERO大ホールにて第40回日本カトリック映画賞の上映会と授賞式が行われました。授賞式には河瀬直美監督の代理として樹木希林さんが出席、監督からはビデオレターが寄せられ上映されました。樹木さん、観世あすかさん（オフィシャルアドバイザー）、ドリアン助川さん（原作者）、そしてシグニス顧問司祭の晴佐久昌英神父による座談会も行われ、映画と座談会が感動をもって受け止められていることが伝わってきました。

カトリック映画賞&上映会に参加して 波多野 直子（カトリック多摩教会）

カトリック映画賞授賞式に行くと「復活させられる」。ただ映画を観に行くだけのはずが、帰ると心に何かが起きている。

初めては洗礼を受けたばかりの同期たちと見に行った。この会場みんなカトリック信者？ なのかな？ おっきな家族と一緒に見るおっきなお茶の間ロードショーさながらにワイワイと気楽に待っていると表彰式が始まり、ド緊張したうちの神父さんが壇上にやってくる。ただ映画館に映画を観に行くのとは違う楽しみがある。

沢山の映画を生きた目で見ていた人たちが、応援したい映画ってどんなかしら？ という期待がある。瞬きを忘れ目がかわく程に強烈な印象を残す心に住みつく映画ばかり。ファンタジーではなく、現実のすぐそこにあるが通り過ぎている題材に目を開かされる。

テイ談で、本気の表現者から普遍的な切り口を炙り出そうと交わされる会話に、生でしか得られない予定調和でない面白さがある。

平和賞がもうけられた。授賞監督さんは遠い地で人質となり亡くなられたご友人の死を語られ、賞をいただく複雑な想いを語られた。

あれからわたしたちも沢山のどうしようもない現実のおこる中、怒りに負けず祈りに変えようと、日々の一歩を怒りの進む方向に流されないよう抗っている。あの場へ行くと、全てが準備されていたことだと納得させられ、自分の中の何かがゆさぶられる。

40周年を迎えた大ホールで若者達と「どらやきいかがですか〜」と立っていた。映画賞の終わった後も、題材となる現実について新任神父さんから話をきくきっかけとなった。かみさまの「ほらね♪」を感じられるこの小さくも大切なキッカケの宝庫。次回も大ホールは、3倍にふくれた大家族と、ともに泣きともに笑うお茶の間のようだろう。

いつの日か、カトリック映画祭なんてことにもなるかしら？ 来年はどの映画かな？ と楽しみにする心のスペースが出来つつある。

写真：波多野さんと多摩教会の
どら焼き販売の青年たち

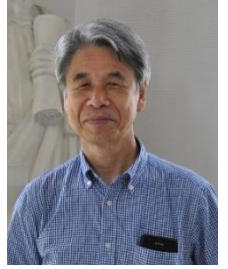


シグニス ジャパン 新会長挨拶

5月のシグニス ジャパンの総会で新しく会長となった土屋至（つちや いたる）です。

前会長の千葉茂樹監督は長年にわたり会長の任にあって今のシグニスを築きました。そのことに敬意と感謝の意を込めて、この度名誉会長となつていただきました。

私がシグニス ジャパンと関わるようになったのは、2003年の第1回「教会とインターネット」セミナーの講師として招かれたのがきっかけでした。当時私は、カトリック学校で「宗教」と「情報」を教えていて、学校のホームページ作成に関わっていましたので、「インターネットが拓く新・福音宣教」というテーマにとっても関心がありました。あれから13年、インターネットをめぐる環境は急速に進歩しましたが、このテーマはなかなか具体的に進展していないのが残念です。



シグニスのもう一つの活動の柱である「カトリック映画賞」の方は、今年は第40回を迎え、受賞作品「あん」の上映会は1200人の大ホールがほぼ満席になりました。これはすごいことだなと思います。会員20人不足、賛助会員50人不足のシグニスの力をはるかに越えて、聖霊の風が吹きまわったのでしょうか。

シグニスの支援を得て「カトラジ」もインターネットラジオで番組を制作、発信し続けています。シグニス アジア主催の映像ワークショップ、ラジオセミナーにもカトラジのメンバーが参加してくれました。また、SNN(SIGNIS Good News Network)がこの秋から若者向け福音宣教ウェブマガジン「AMOR」を発行します。これはバチカン福音宣教省からの助成を受けて試みる新しいプロジェクトです。

来年2017年にはシグニス東アジアの集会を東京で行う予定です。このように私たちは世界やアジアのシグニスとの連携を強化していきます。こんな時に会長を務めるにあたり、「これは大変なことになった」と気が引き締まる思いです。みなさんの支えと聖霊の導きがなければ、できないことです。どうぞよろしくお願いいたします。

賛助会員とともに捧げるミサ

～これから繋がる集いに～

今回で4回目となる感謝ミサが7月16日(土)、カトリック浅草教会でおこなわれました。いつくしみの特別聖年にあたり、「私たちの活動が神のみ心に叶ったものであるように、聖なるミサを共に捧げます」の晴佐久神父の言葉でミサが始まりました。

お説教では、「この日の朗読(ミカ2・1-5)箇所は、現代社会を言い表しているような預言の言葉。シグニスジャパンはこの時代に何とか立ち向かうとしています。メディアを通して福音を語り、一番弱いもの、一番大事なものを大切にしていきたいと活動しています」と、力強く呼びかけてくださいました。

ミサ後には歓談しながら昼食を囲み、久しぶりにみなさまとお話することが出来ました。その後は、5月に行われた日本カトリック映画賞の授賞式と鼎談のDVDをそれぞれの思いを振り返りながら観て楽しみました。



賛助会員の方々の多くは映画がお好きで、各自の教会で映画鑑賞会を催されていたり、シネマカフェを開いていたりと、参考になるお話を聴くことができました。また、映画賞選考について、ふさわしい作品を紹介しあったり、選考会に参加していただくなど今後に繋がる活発な話し合いがもてました。日本のカトリック教会を元気にしていくうえで、一人ひとりの知恵と行動の大切さを改めて感じた集いでした。(谷口)

賛助会員募集

一緒にメディアを通して福音を伝えていきましょう！

わたしたちSIGNIS JAPANの活動をサポートして下さる賛助会員を募集しています。

会員の方には、ニュースレター「タリタ・クム！」(年3回発行)をメールまたは郵便にてお届けする他、賛助会員と共に捧げる感謝のミサを東京地区で行っています。詳細は賛助会員の皆さまにご連絡させていただきます。

年会費一口 3,000円。ご入会いただける方は、氏名、住所、連絡先を下記までお知らせ下さい。

どうぞよろしくお願いいたします！

〒107-0052 東京都港区赤坂8-12-42 聖パウロ女子修道会内 SIGNIS JAPAN / info@signis-japan.org
会費およびご寄付は、下記へ振込みをお願いいたします。

銀行振込 三菱東京UFJ銀行 六本木支店 普通 1679019 SIGNIS JAPAN 代表 土屋至

郵便振替 口座番号 00100-0-594547 口座名称 SIGNIS JAPAN 代表者 土屋至